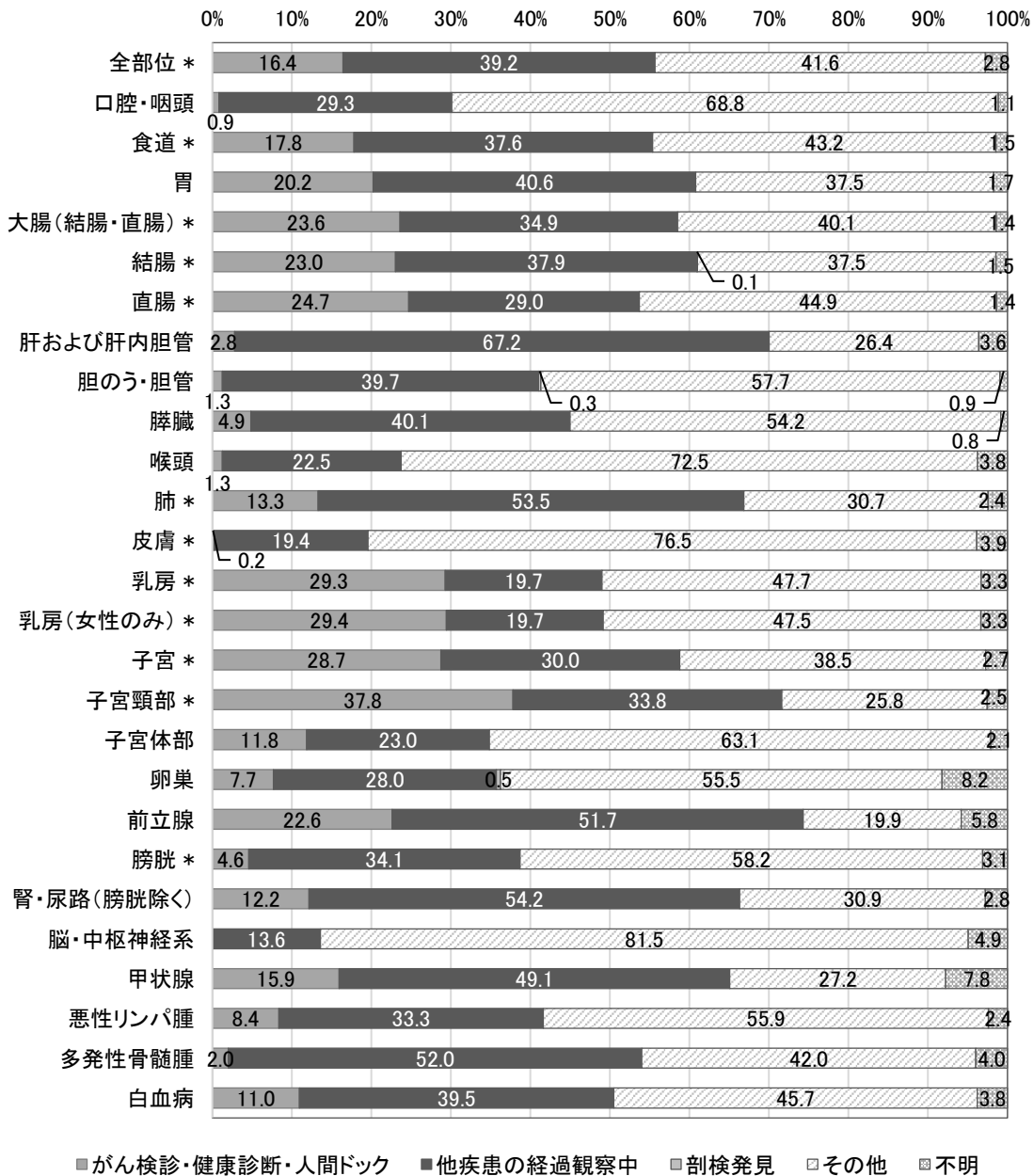


3 受療の状況

(1) 発見経緯

「がん検診・健康診断・人間ドック」の自発的検診による発見は、子宮頸部、乳房が高値となり、次いで大腸、前立腺の順になった。「他疾患の経過観察中」は肝臓が最も多く、次いで腎・尿路（膀胱除く）、肺、多発骨髄腫となった。「その他」は自覚症状による受診を含み、全体的に割合も高くなっている。【図 14】

図 14 部位別発見経緯（％）：DCO 症例を除く（表 4. A, B から作成）

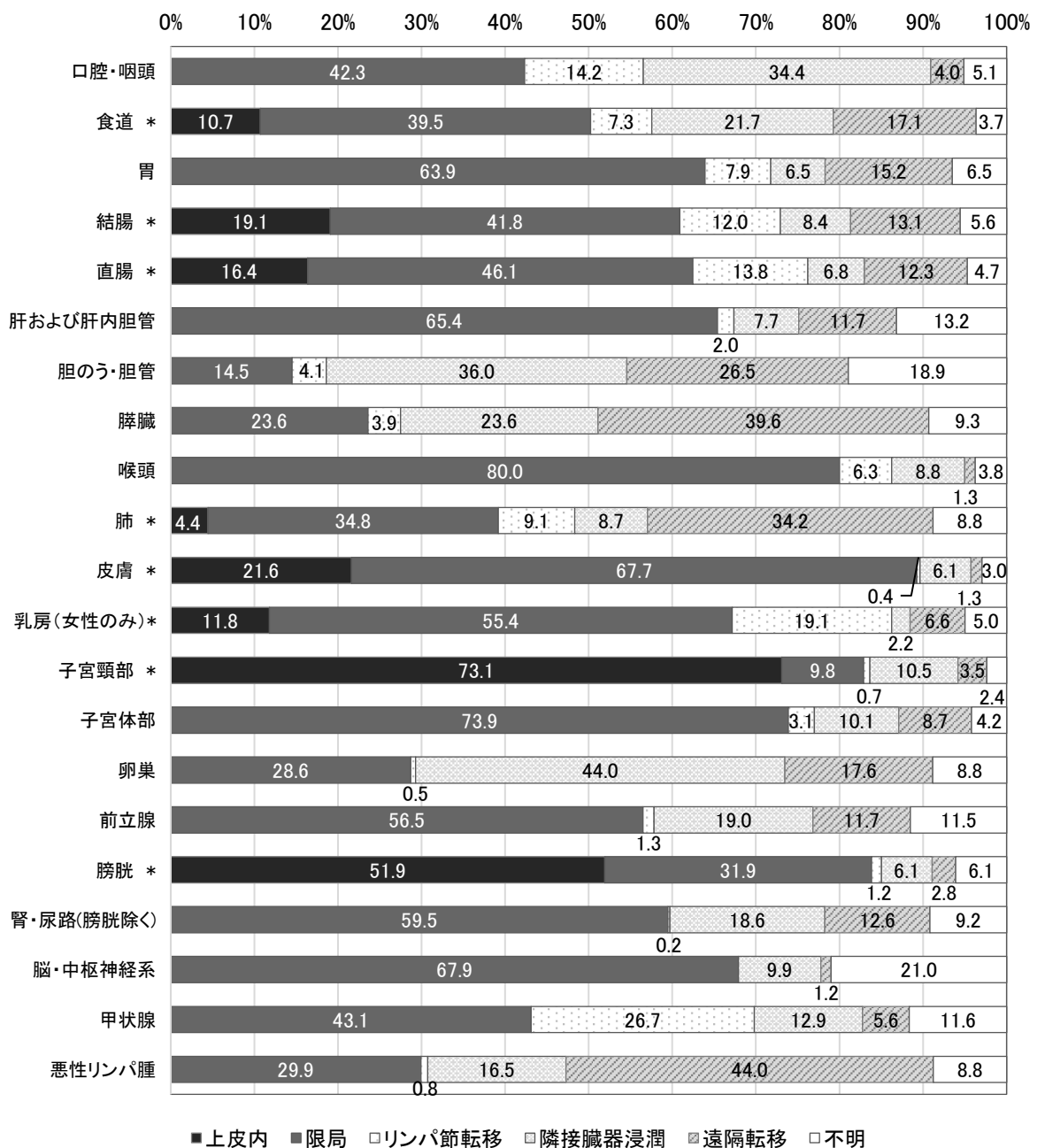


*は上皮内がんを含む。

(2) 発見時の進展度

一般的にがん検診が実施されている部位では、発見時の進展度が「上皮内がん」及び「限局」とどまっている割合が高いが、肺はがん検診が実施されている部位ではあるが「遠隔転移」の割合が高い。また、胆のう・胆管、膵臓のように、腫瘍が比較的進行するまで自覚症状の出にくい部位においては、発見時に「隣接臓器浸潤」又は「遠隔転移」となっている割合が高い。【図 15】

図 15 部位別発見時進展度割合 (%) : DC0 症例を除く (表 5-1. A, B から作成)

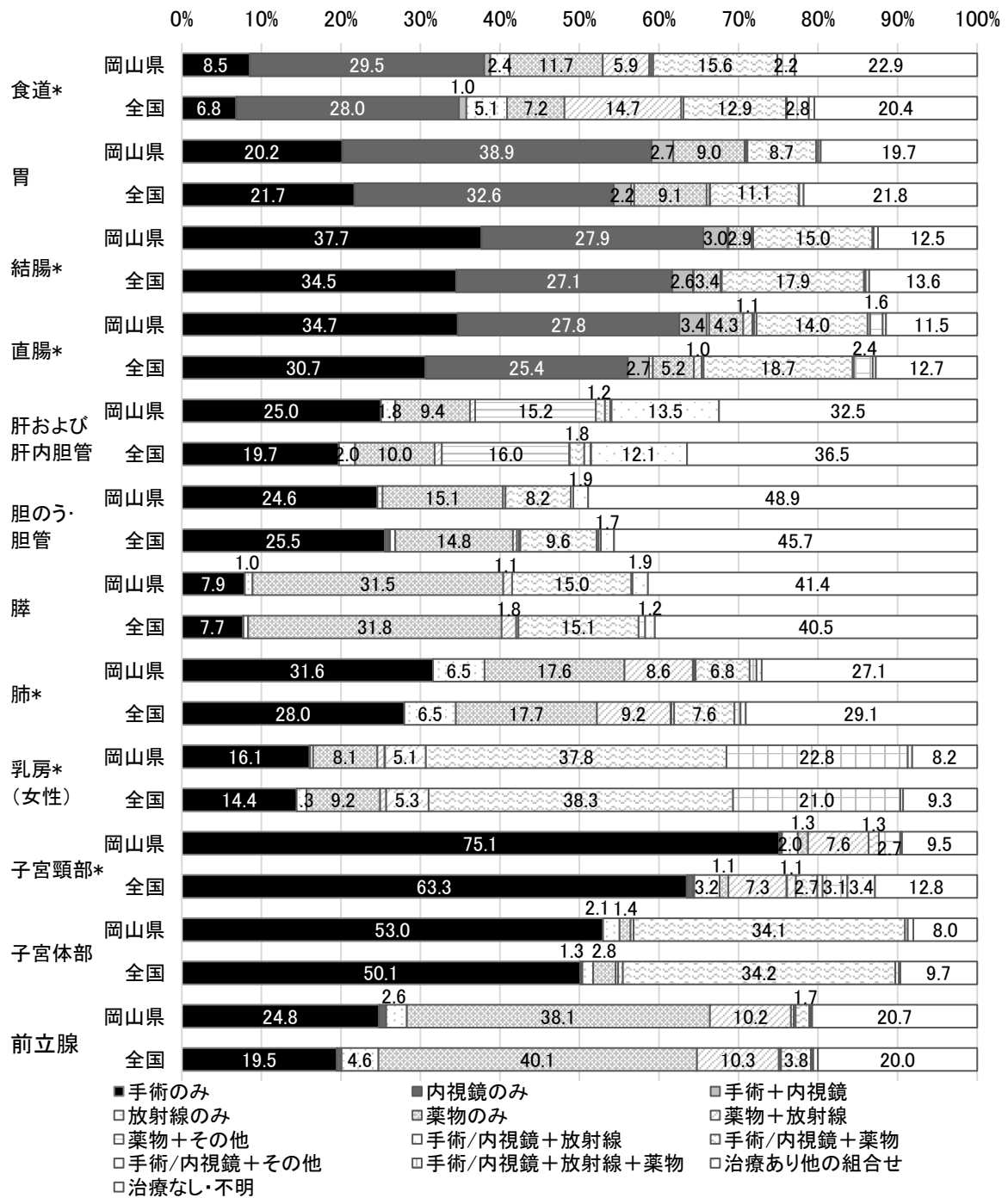


*は上皮内がんを含む。

(3) 初回治療の内容

初回治療内容割合について、厚生労働省の「全国がん登録 罹患数・率報告」において公表されている全国値との比較を示した。ほとんどの部位において全国と岡山県は同じような傾向を示す。【図 16】

図 16 初回治療内容割合(%) : DC0 症例を除く (付表 3. A, B から作成)



* は上皮内がんを含む

1%未満は非表示